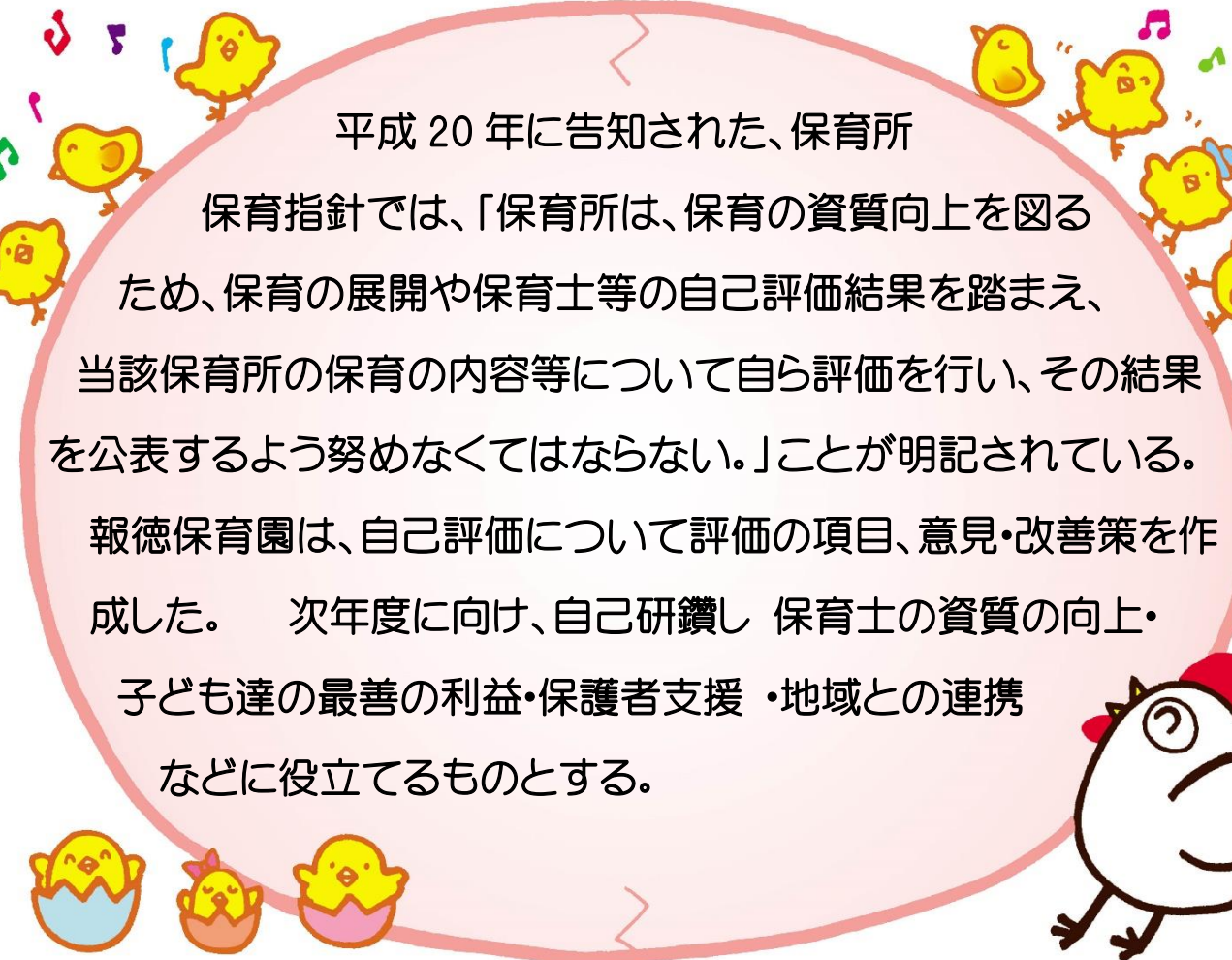


平成 28 年度 保育園の自己点検・自己評価



平成 20 年に告知された、保育所
保育指針では、「保育所は、保育の資質向上を図る
ため、保育の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、
当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果
を公表するよう努めなくてはならない。」ことが明記されている。
報徳保育園は、自己評価について評価の項目、意見・改善策を作
成した。 次年度に向け、自己研鑽し 保育士の資質の向上・
子ども達の最善の利益・保護者支援 ・地域との連携
などに役立てるものとする。



社会福祉法人報徳福祉会

報 徳 保 育 園

(098) 886-8263

平成 28 年度の本園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育計画に生かせる方向で記入する。

〈評価について〉

評価に当たっては、下記のような基準で評価を行っている

A—理想的な状態にある状態 (100%)

B—通常行われている状態 (80%~90%)

C—部改善・あるべき姿に到達していない状態 (50%~80%)

1. 子どもの発達援助

1-1 子どもの発達援助の基本

社会福祉法人報徳福祉会の理念や保育園の保育目標の基本方針で保育に対する考え方や姿勢を示すものです。これが明確にされていることで、職員は自らの業務への意識付けや子どもへの接し方、保育・保育サービスに対する具体的な取り組みを行う事が出来るようになります。また、実施する保育・保育サービスを保護者等にわかりやすく伝えることが保育園に対する安心感、信頼を与えることにもつながります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育課程を基本方針に基づき作成している	① 保育課程の作成に職員が参加している	A
	② 地域の実態や保護者の意向などを考慮して、保育課程を作成している	A
	③ 保育課程を保護者に説明している	A
(2) 指導計画の評価・検討を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している	① 年齢の子どもの発達に配慮した指導計画となっている	A
	② 日常生活を通して子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている	A
(3) 各年齢の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある	① 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある	A
	② それぞれの子どもに関する情報を全職員に周知している	A
	③ 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について話し合い、検討を必要に応じて実施している。	A
〈特記事項〉		

1-2 健康管理

健康管理は子ども一人ひとりの、健康状態と集団の状況に応じて日々丁寧に実施することが大切です。組織として子どもの健康管理に関する基本的なマニュアルを整備し、それぞれの職員が必要な知識などを習得していく事が必要となります

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	① 健康に対するマニュアルがあり、職員に周知徹底している	A
	② 身体測定や、健康診断の結果について、定期的に記録し子どもの健康状態を保護者職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
(2) 乳児突然死症候群(SIDS)や感染症等を予防する仕組みがある	① マニュアルがありそれを活用している	A
	② マニュアルに基づき、保護者への感染症の予防策及び対応について周知している	A
	③ 呼吸チェック表を記録し一人一人をしっかりと観察している	
(3) 感染症予防の仕組み	③ マニュアルに基づき、保護者への感染症予防策及び対応について周知している。	A
<p><特記事項> 多種の研修を受けそれをもとにマニュアルを作り徹底した園内研修を行っている。</p>		

1-3 食事

報徳保育園では子どもの健康管理、給食の分野に力を入れている。食物アレルギー等、命にかかわる管理を充分に行うとともに、食育の面では心豊かに食を楽しみ、自然の恵みに感謝するなど人間性を育む一環として重要な課題として位置づけられているか、子どもの命を守る大切な事項として再点検が必要である

小分類	評価項目	評価結果
(1) 食育を通して子ども達が楽しく食べ、食べる食欲が育まれるように工夫している	① 乳児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている	A
	② 落ち着いた環境で楽しく食事ができるよう工夫している。	A
	③ 食事の状況に基づき食事内容や調理の内容を改善している	A
	④ 旬のものや季節感のある食材を使用し、食文化を伝えるよう工夫している。	A
	⑤ 子ども達が育てた収穫物などを調理し、食材への関心や食べる意欲を育てている	B
	⑥ 調理担当者と子どもとのコミュニケーションが図られるようにしている。	A
	⑦ 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	A
(2) アレルギー疾患、慢性疾患などを持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている	① アレルギー疾患、慢性疾患などを持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている	A
	② 間違いが無いように個別のプレートやトレイなどで分け、調理師や保育士と確認している	A
	③ 保護者の申し出により個別に対応している	A

(4)子どもの食生活を充実させるために家庭と連携している)	① 毎月の献立表の配布、日々の献立の現物を展示し、保護者に示すとともに子どもの食事の状況を知らせている	A
<p><特記事項></p> <p>特に食物アレルギーのある子に対し、保育士、調理師が十分に話し合い、誤食の無いように注意している。毎日、朝のミーティングで、全職員が周知徹底している。</p>		

1-4 保育環境

保育園は子ども達にとって生活の大半を過ごす場であり、「生活の場」といえることが言えます。子ども達が心地よく過ごす生活の場にふさわしい環境を整えていくことが大切です。生活環境には身体的な心地よさ、精神的に落ち着ける心地よさ、衛生的な心地よさがあり、様々な面から保育環境を整備し、子ども達が園で快適に過ごせるように、出来る限りの配慮をする必要があります。

小分類	評価項目	評価結果
(1)子どもが心地よく過ごす事が出来る環境を整備している	① 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している。	A
	② 屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	A
	③ 気候や子ども達の活動に合わせて、採光、温度、湿度、換気、色彩などに配慮している。	A
	④ 自然光を充分に取り入れる工夫をしており、室内照明に配慮している。	A
(2)生活の場にふさわしい環境とする取組を行っている	① 生活の場面にあった保育者の声、音楽など音に配慮している。	B
	② 園内に、子どもたちが季節感を味わえるような季節の飾りつけや、壁面、くだもの、生け花など工夫をしている	A
	③ 植物や小動物を見たり触れたり、楽しみながら育てる事が出来る。	B
	④ 屋外での生活の場が確保され、こども達が活動しやすいように工夫している。	B

<特記事項>

園内・園庭には、季節に応じた生け花や、花壇一杯に草花を植え、環境整備に心掛けている。小動物を飼育したいが、子ども達への衛生面が心配である。

1-5 保育内容

子ども一人ひとりへの理解を深め、受容することは保育の基本です。子どもを受容するということは、子どもの言い分をよく聞き、保育者が子どもの気持ちに共感しなくてはなりません。保育者は常にゆったりとした気持ちで、子どもたちの思いや要求を受容することが大切です。また、保育内容については、様々な取り組みがありますが、まず、子どもと保護者の人権を尊重した上で、子ども一人ひとりの家庭環境、身体的能力、精神的成長の違いを把握して保育をすすめることが大切です。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	① 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、穏やかに話している。	A
	② せかす言葉や制止する言葉を不用意に使わないようにしている。	A
	③ 子どもの要求や訴えに対して、子どもの気持ちを受け止め、状況に応じた適切な対応をしている。	A
	④ 子どもの質問に対して、よく耳を傾け何を求めているかを理解し、適切に対応している。	A
(2) 基本的な生活習慣を身につけ、積極的に活動できるような環境が整備されている。	① 基本的な生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し、家庭と連携しながら、子どもの状況に応じて対応している。	A
	② 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着け方の援助について工夫をしている。	A
	③ 安心して休息できるように配慮している。	A
(3) 子どもが様々な活動を自由に体験できるような環境が整備されている。	① 子どもの様々な活動を自由に体験できるような環境が整備されている。	B
	② 子どもの発達段階に即した玩具や、遊具を、質、量とともに適切に用意している。	B
	③ 好きな遊びが自由にできる時間やコーナーを用意している。	B
(4) 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがされている。	① 身近な生活体験の中で、命の大切さや季節感など、豊かな感性を育むよう配慮している。	B
	② 生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	A
	③ 散歩や行事などで、子どもたちが主体的に地域の人に接する機会を作っている。	A
	④ 身近な自然と関わる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し自然から出た素材を活用している。	A
(5) 様々な表現活動が体験できるように配慮されている。	① 身体等を使った様々な表現遊びが取り入れられている。	A
	④ 様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている。	B
	⑤ 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A
(6) 遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。	① 喧嘩の場面では、危険のないように注意しながら、子どもたちのプライド、自立性を尊重し、子どもたち同士で解決するよう援助している。	A
	② 子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけや働きかけをしている。	A
	③ 順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。	A
	④ 広く社会性が身につくよう、異年齢の子どもたちや様々な年齢層の人たちと交流している。	A
(7) 乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	① 授乳は、子どもがほしがるときに、抱いて目を合わせたり微笑みかけながらゆったりと飲ませている。	A
	② 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
	③ 一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	A

	④ 顔を見合わせてあやしたり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。	A
	⑤ 特定の保育者との継続的なかわりが保てるよう配慮している。	A
	⑥ おむつ交換時は、優しく声をかけたり、スキンシップを取りながら行っている。	A
	⑦ 外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	A
	⑧ 赤ちゃん言葉には、ゆったりと優しく答えている	A
(8) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	① 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	A
	② 生活の基本クラスで過ごせる時間を長くし環境があまり変化しないように配慮し、子どもの心の安定を図る。保育士間の引継ぎが重要になり連絡ノートを活用する。	A
	③ 異年齢の子ども同士遊べるように配慮されている	A
	④ 子どもの状況について、職員間の引継ぎなどを適切に起きている。	A
(9) 障がい児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	① 保育を実施するにあたり、園全体の職員がその子どもの障害の状態を十分に理解している	A
	② 保護者の理解のもと、障がいを持つ子の関係機関、医療機関等との連携を図り、必要に応じて助言・援助を受けている。	A
	③ 障がい児が園生活を送るために、必要に応じて園の子ども達や保護者に障がいを理解できるような言葉かけをし、配慮している。	A
	④ 障がいの特性に合わせた計画を立て、保育内容を見直し、発達を援助している。	A
	⑤ 障がいを持つ親を受容し、ともに育てるという気持ちを持つような関係を作っている。	A
(10) 保護者が障害を持っている。	① ろうあ者に対しては、職員が手話を習得し会話ができるようにする。いつでも筆談で意思の疎通ができるような支援をしている。体が不自由な場合には送迎時の階段の上り下りやカバンの持ち運びなどを手伝っている。	A
(11) 積極的な健康増進の工夫を遊びの中に取り入れている。	① いろいろな運動遊びを工夫しながら取り入れている。	A
<p>〈特記事項〉</p> <p>現在、障がい児はいないが、留意児童や全園児や保護者地域の皆さんにも、いつでも相手の心に寄り添い、すべての人を受容出来るような、保育園の雰囲気を作るよう努力していく。</p>		

1-6 入所児童の人権尊重

人権を尊重する保育は、保育の基本であり、文化の考え方の違いをお互いに尊重できるように心がけたいものです。保育現場においても、多くの外国人がおり、文化や生活習慣の違いなどを正しく理解し、互いに尊重する対応が求められます。また、性差意識についても無意識の内に性別による支持を不用意に出していないか、日頃から職員間で相互に確認しあうことが大切です。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	① 子どもが自分の思いや意見をはっきり言うことができるよう配慮し、それを尊重している。	A
	② 子どもが他の子どもの気持ちや発言を受け止められるよう配慮している。	A
	③ 一人ひとりの子どもの心身の状態、生活習慣や文化、家庭の事情、考え方の違いを知り、それを尊重する心を育てている。	A
	④ 子どもの人権への配慮やお互いを尊重するための取り組みを保護者も含めて行っている。	A
(2) 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けない様、配慮している。	① 子どもの態度、服装、遊びなどで性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。 ② 出席簿は、男の子、女の子、ではなく誕生月日順としている。	A
(3) 外国籍や帰国子女の子どもに対して、適切な配慮がなされている。	① 日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるよう、努力や工夫をしている。	A
(4) 保育中の子どもの人格尊重を意識している。	① 保育者は、子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	A
〈特記事項〉		

2. 子育て支援

2-1 入所児童の保護者の育児支援

保育は園だけで行われるものではなく、家庭との連携が必要なことは言うまでもありません。しかし、働く親たちを取り巻く環境は、厳しい状況にあり、子育てには時間的余裕が取れないのが現状です。保護者の仕事と子育ての両立等を支援するために、保護者の状況に配慮するとともに、常に子どもの福祉の尊重を念頭におき、生活への配慮がなされるよう、家庭と連携・協力していく必要があります。また、子育てに対する自信やゆとりの喪失、ストレスの増大などを生み出すことのないよう、園から保護者への積極的な働きかけが必要です。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	① 送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設けて相談に応じ個別面談を行っている。	A
(2) 家庭の情報や情報交換内容が必要に応じて記録されている。	① 個別面談記録をとっている。	A
	② 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて、関係職員に周知されている。	A
(3) 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	① 保護者会・懇談会などを定期的に行い、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A

(4) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めている。	① 保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A
	② 虐待児の早期発見の仕方についてマニュアルがあり、全職員に周知している。	A
(5) 保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供している。	① 「園だより」や「クラスだより」「おしらせ」など定期的に発行している。	A
	② クラスごとの保護者会・懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を行っている。	A
(6) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしている。	① あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
	② 保育参加・保育参観の機会を随時受け入れている。	A
〈特記事項〉		

2-2 地域の子育て支援

入所の保護者への支援は、日々の保育に深く関連して行われますが、地域の子育て家庭に対しても子育て力の向上に貢献していくことが今後の課題となりました。保育園としての専門性を地域のニーズに応じて提供することが求められています。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 育児相談やふれあい体験保育など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている	① いつでも育児相談ができる体制が整っている。	A
	② パンフレットなどを作成し、積極的に子育て情報を提供している。	A
	③ 地域における子育てニーズを把握して子育て支援を実施している。	A
	④ 初めて利用する親子が溶け込みやすい雰囲気づくりをしている。	A
〈特記事項〉		

3. 地域との連携

3-1 保育園の役割を果たすために必要な地域の関係機関・団体との連携

保育園が日常の保育の中で蓄積してきた子育てに関する知識、経験や技術などを地域に積極的に提供していくことは、保育園の役割として求められています。それには、地域の子育て関係機関と連携を図り、より豊かな支援が展開できるようにしていく必要があります。また、中学生、高校生等の職場体験やシニアボランティアなど積極的に受け入れています。開かれた保育園として今後も積極的に取り組んでいく必要があります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力依頼するなどの配慮をしている。	① 園外向け掲示板やポスター等で園の様子や行事などについて、地域の人々に見てもらえるようにしている。	A
	② 地域の人々に向けた保育園や子どもへの理解を得るための日常的なコミュニケーションを心がけている。	A
(2) 小学校との連携や修学を通じた計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮されている。	① 保護者が就学に向けての子どもの生活について見通しを持てるように配慮されている。	A
	② 職員間の話し合い、情報交換などの連携の機会がある。	A
(3) 地域の関係機関などと連携を深めるようにしている。	① 育児相談などに際して、専門機関と相談や連携ができている。	A
(4) 保育園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している。	① ボランティア・体験保育の人々を積極的に受け入れている。	A
	② 高齢者施設などの人々との交流の機会を設けている。	A
	③ 児童館の利用者に対して行事参加の呼びかけをしている。	B
	④ 他の保育園と交流する機会を設けている。	A
〈特記事項〉		

4. 運営管理

4-1 基本方針

保育を実施するにあたって、報徳福祉会の「保育理念」に基づいて保育園が目指す基本的な方向を明文化した「保育の基本方針」が必要であり、それを園の関係者や保護者へどのように説明しているか点検する必要がある。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育所の保育理念及び基本方針を明文化している。	① 保育理念を年度初めに職員で確認している。	A
	② 基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	A
(2) 保育理念や基本方針を職員や保護者などに周知するための取り組みを行っている。	① 職員や保護者などに見やすい場所に掲示している。	A
	② 保護者会配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している。	A
〈特記事項〉		

4-2 組織運営

保育園の起用や役割が増す中で、職員が組織の一員として今まで以上にその役割をしっかりと担うことが求められています。また、新保育指針の中では、運営するために施設長の役割が大きく、常に保育所運営等の課題を自覚し、人間性を高めるなど、日頃から研鑽に努める必要があります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育の質の向上や改善のための取り組みを全職員参加して行っている。	① 保育の質の向上や改善のための取り組みについて、意図的・計画的に実施している。	A
	② 職員会議などで職員が意見を述べる機会を確保している	A
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明している。	A
	② 施設長は、質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している。	A
	③ 職員の役割分担と責任を明確にすることによって子どもや保護者への速やかな対応ができる体制を持っている	A
(3) 運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証、見直しをしている。	① 運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証、見直しをしている。	A
	② 利用者アンケート等利用者の意向・満足度を把握する仕組みがある	B
	③ 日常業務時や職員会議等により業務の効率化について話し合う機会がある。	A
(4) 非常勤職員と連携を取るための取り組みがなされている。	① 非常勤職員には、正規職員昇任試験を受けるように勧めている。	A
	② 非常勤職員の意見を聞いたり、話し合う機会を定期的に持っている。	A
	③ 非常勤職員へアンケートがある。	B
	④ 非常勤職員と連携をうまく取るために担当職員が決まっている。	A
<p><特記事項></p> <p>非常勤職員に対し、必ず、昇任試験を受け正規職員になるようにすすめていく。 辞退者がいない様に声掛けし、励ましていく。</p>		

4-3 人財育成

保育園は、質の高い保育を展開するために、資質の向上のための研修、研究自己研鑽が出来るような環境が必要です。保育を実施するにあたって、「保育理念」に基づいて保育園が目指す基本的な方向を明文化した「保育の基本方針」が必要であり、職員全体の専門性の向上を図り、それを園の関係者や保護者へどのように説明しているか点検する必要がある。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育所の保育理念及び基本方針を明文化している。 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	① 各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	A
	② 研修したものを園の職員で共有し、自己研鑽に役立てる。	A
	③ 園内研修を行っている。	A
〈特記事項〉		

4-4 安全・衛生・危機管理

子どもの安全が脅かされる事件等の発生など、近年、子どもを取り巻く環境は悪化しており、園での事故は未然に防いでいかななくてはなりません。事故の予防や災害時の対策は保育園に関わる全職員に周知し、だれもが同じように対応できるようマニュアル化するとともに、日常的に確認することが必要です。保育園の危機管理を徹底し、安心、安全を守ることは保護者との信頼を築く基礎となります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 事故や災害に適応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	① マニュアルは、全職員がすぐに手に取り、見ることができる場所にある。	A
	② 職員への周知方法として、全職員にマニュアルが配布されている又は研修や訓練が行われている。	A
	③ 外部からの侵入に対する対応を実施している	A
	④ 園内研修で、読み合わせし確認している。	A
(2) 安全管理のマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されている。	① 緊急時に慌てず対応できるよう、医療機関等の連絡先を表示している。	A
	② 時間帯、曜日に合わせたマニュアルが整備されている	
(3) 事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	① 事故防止、安全管理のためのチェックリストが作成されている。	A
	② 毎日又は定期的にチェックが行われている。	A

(4) 調理場、水回りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	① 日頃からチェックリストを使った点検、確認等が行われている。	A
(5) 水回りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような危機管理体制が整備されている。	① 日頃からチェックリストを使った点検、確認などが行われている。	A
(食中毒の発生時に対応できるマニュアルがありさらにその対応方法については、全職員にも通知されている)	① マニュアルは、全職員がすぐに手に取り見る事が出来るところにある。	A

4-5 守秘義務の遵守

業務上で知りえた情報には、守秘義務が課せられます。プライバシーの保護について厳しく制約され、相手の同意なくして情報を提供することはできません。保育現場においても職員間の情報共有は大切ですが、子どもや保護者の家庭環境などの情報について不用意に取り扱うことがないようにしなければなりません。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 守秘義務の遵守を全職員に周知している。	① 保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	② 保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
<p><特記事項></p> <p>職員の自宅でPCを入力したものを園のPCに差し込まない。ウイルスや情報が漏れないために徹底する。</p>		